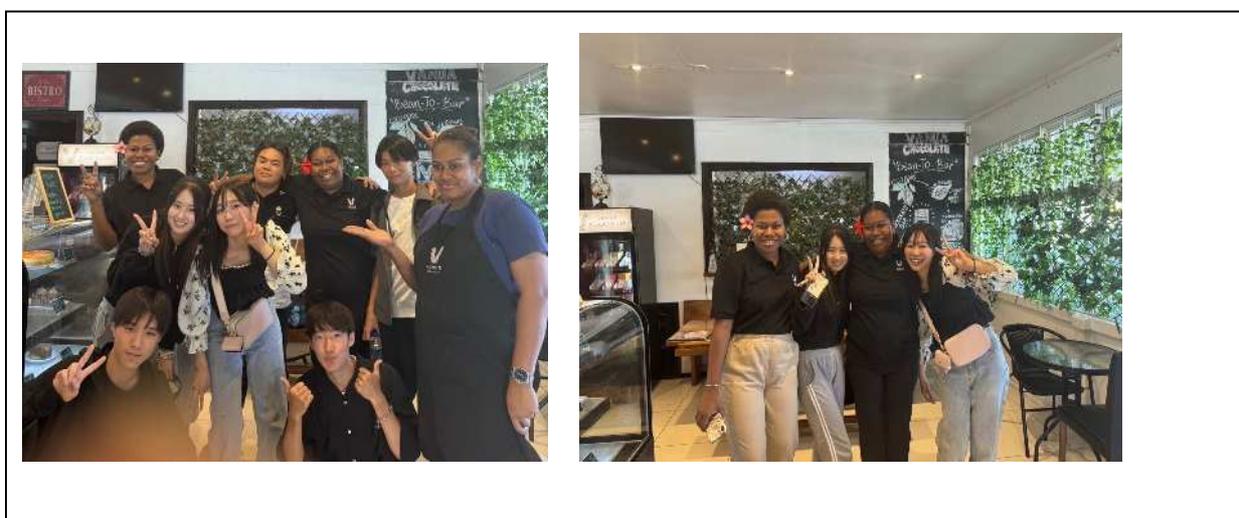


ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (多文化共生・多様性コース)		訪問国	フィジー ナンディー	
学校名	静岡英和女学院高等学校	氏名	秋野ちひろ	学年	2年C組

私は、2024年7月30日から8月27日までフィジーのナンディーというところに約4週間留学してきました。

そこで学んだことは、トビタテの探究活動の結果だけではなく、留学を共にしたメンバーとの友情など人としても成長できた4週間だったと思います。このトビタテに勇気を出して受けてよかったと心から思いました。



この二つの写真は、私がインタビューをしたフィジーの人がカフェを営んでいる人とバイトの人だったので「私の店に良かったらパンケーキを食べに来てほしい!」と言われて訪問させていただきました。日本と違ってびっくりしたことは、友達がサンドイッチを頼もうとしたときに「今日サンドイッチないから別の物にして」と言われたことでした。日本の飲食店のメニューは、頼めるものしか記入されていないと思いますがその時に私は「留学生がいうカルチャーショックとはこのようなことをいうのかな?」と思いました。



この3つの写真は、私が留学していた時にできた家族みたいな関係の友人です。この冬この中のうちの4人と遊びました。来年度高校3年生になるので、「受験終わったら遊ぼうね」とみんなと約束しました。とても楽しみです。

留学中私にとっての事件が起こりました。留学して二週間たった時。携帯電話が盗まれてしまいました。そんな時に留学の友達20人位が警察署に心配して駆けつけてくれました。その友達は3グループほどに分かれて、1つ目のグループは、私と一緒に警察署に残ってくれる人達 2つ目のグループは「DEGISEL」というフィジーのSIM会社に行ってSIMを止めに行ってくれた人達 3つ目のグループは、犯人を見つけに行く！と言って探しに行った人たちです。他人の事を自分の事のように考える事が出来る友人に会えたことが何よりもうれしかったです。



私の留学探究テーマフィジーのコミュニティ文化はどのように作られ、今に至るまで保たれているのか？人と人とのつながりから得られる真の豊かさとは？という問いについてです。インタビューやボランティア活動などを通してこの問いについての明確な答えはない。しかし、この約4週間の留学を通しての答えは、今の日本よりもSNSがフィジーでは発達していない。そのためSNSよりも近くにいる人を大切にしようという事を意識しているというよりは無意識のうちに行っている。地域の人＝家族と思う事が当たり前。自分にとって気の置けない人をたくさん自分のそばにおいておくことによって心に余裕が生まれ、余裕が生まれることによって心が豊かになっていくということがアンケート結果やボランティア活動などによって分かった。

最後に、私は高校2年生の時にトビタテを通じて留学できたことがとてもよかったです。トビタテコミュニティを通して全国にたくさん友達がいると思うととても心強いです。普通の高校生活を送っていたら、全国に友達ができることはそうそうないことだと思います。

この経験をさらに良いものにできるようにしていきたいと思います。

ありがとうございました。